

小学校外国語活動実践研修(周南市)の概要をお知らせします。

周南市立徳山小学校において7月28日(水)に、外国語活動の研修会が行われました。市内外、遠くは宮崎県からの参加もあり、当日300名を超える参加者で、大変な盛り上がりでした。

徳山小の教職員の方々が駐車場の整理や参加者の誘導、会場の場面転換等に機敏にしかも機転を働かせて対応されている姿は、暑中に吹く一陣の涼風のようなようでした。

研修会は、次のような内容で行われました。

【公開授業 5年生(単独授業)】

英語ノート1 Lesson4 「I like apples. 自己紹介をしよう ~好きなものを伝えよう~」

徳山小学校 5年1組担任 楯 規子 教諭



好きなものを尋ねたり答えたりする英語の表現に、チャンツをとおして慣れる活動が実施されました。タンバリンやメトロノームのリズムに合わせ、子どもたちは動作を交えて大きな声で英語を言っていました。好きか好きでないかを子どもたち自身が判断して、英語の表現を選んで使っている点に工夫が見られました。グループ活動では、自己紹介した仲間の好きな動物を当てる活動が実施され、積極的に英語を使って尋ねていました。

【示範授業2 6年生(単独授業)】

英語ノート2 Lesson4 「I can swim. できることを紹介しよう」

国立教育政策研究所 教育課程調査官 直山 木綿子



教室でよく実施するキーワードゲームや指さしゲームの説明や実施の仕方が、大変参考になりました。また、担任の先生を授業に引き込み、子どもたちの興味・関心を高め、担任の先生の「できること」、「できないこと」を子どもたちに推量させ、表現に慣れさせる活動で、子どもたちは活発に発言をしていました。さらに、「~ができる」と言った場合、日本人は、その行為が上手でなくてはいけないイメージをもっているが、外国人は少しでもできれば“I can~.”を使うという興味深い指摘もありました。

【研究発表】

徳山小学校の研究発表

「子どものコミュニケーションの力を育てる外国語活動の進め方（2年次）～外国語を使って楽しく表現する子ども～」



研修主任の竹部教諭が研修主題や研究のねらい、研究の背景について発表され、外国語活動担当の大丸教諭が外国語活動の取組の実際として昨年度の成果と課題や本年度の研究内容について発表されました。子どもたちの実態の分析や変化の様子が簡潔にまとめられており、わかりやすい内容でした。また、全面実施に向けて各学校で研修を進めていただきたい内容（授業は fun から interesting へ、全校体制による取組、ねらいの明確化、保護者への周知等）について言及されており、今後の取組の参考になるものでした。

その後、公開授業、研究に対する質疑応答が行われ、授業、研究の取組双方に対する質問が出されました。

【講演】

「小学校外国語活動の課題と展望」

国立教育政策研究所 教育課程調査官 なお やま ゆう こ
直 山 木綿子



御自身が授業をされたクラスの分析からお話しが始まりました。名札を渡す活動を通しての子どもたちの個性の見取りに始まり、授業展開からクラスの全体の雰囲気や人間関係、発達段階を読み取られた様子をお話しされました。その後、子どもたちの興味・関心を高め授業に引き込むため、急遽担任の先生と調査官とで「できること」、「できないこと」を英語で尋ね合うやり取りを実施した意図について説明がありました。授業は、的確な状況判断による真剣勝負であるということを感じました。

子どもたちの知的好奇心を刺激する授業の展開例として、料理や食事のメニューを見せて、家庭科で学習する栄養素のどの色に分類されるのか考え、色を英語で言う例などの紹介がありました。その他、担任の先生は、クラスルーム・イングリッシュを含めどのような内容を英語で言うべきなのか、小学校外国語活動と中学校の英語の違いについてのお話がありました。

フロアからの質問の「英語を使う楽しさの体感のさせ方」には、英語を使う状況設定を工夫して実際のやり取りを体験させながら感じさせることや、「フォニックスの指導」の質問には、中学校で扱うことになっていると話されながら、具体例を示してその難しさを説明され、外国語活動に対する理解が一層進みました。